令和7年度　浜松市立北浜北小学校　学校だより

北心だより

令和　8年1月　6日　NO、11

にこにこ　はきはき　ぐんぐん

学校教育目標
夢に向かって　輝き合う子

・・「自分から」踏み出す　３学期

３学期始業式

明けましておめでとうございます。冬休みを終え、元気な子供たちの声が学校に戻ってきました。いよいよ令和７年度の締めくくり、３学期のスタートです。始業式では子供たちに今年の干支「午（うま）」にちなんだ話をしました。馬が力強く、まっすぐ駆けていくように、一人ひとり目標をもって取り組み、さらに大きく飛躍することを願っています。

校長から子供たちへ３学期に特に意識してほしい２つのことを伝えました。１つ目は「**まとめ**」を大切にすること、２つ目は「ありがとう」増やすことです。１つ目については、苦手だなと思っていることでも、もう一度粘り強く取り組むことで、少しずつ得意に変わってきます。学習も生活も一歩踏み出すことで次の学年への自信というバトンをしっかり準備していくことです。２つ目については、「**ありがとう**」は自分も相手も温かくする最高のふわふわ言葉です。家族、友達、地域の人、先生へ感謝の気持ちを伝えていくことで、学校生活を温かい笑顔にしていきたいということです。

さて、子供たちが自分から一歩踏み出していくためには「当たり前のことを当たり前にやる力」が必要です。これは、一朝一夕には身に付きません。学校における指導だけでなく、御家庭の力も必要となってきます。「〇〇しなさい」と先回りして指示を出すのは、簡単ですが、それでは、子供が自ら考える機会を奪ってしまいます。例えば指示を出すのではなく質問にしてみたらどう変化してくのでしょうか。いつも誰かに言われないと自分で準備ができない時に「次は何が必要かな？」と切り返してみたらどうでしょうか。そして、自分で考えて準備ができた時に「すごい」とほめてみると自信がつくことでしょう。また、他の例として漢字が苦手だった子に「まだこれだけしか覚えていない」と言うよりも、「昨日のこの字が綺麗に書けている」などと小さな変化を具体的に褒めてみるとどうでしょうか。「ここまではできたね」という肯定的な振り返りがさらに一歩踏み出す意欲を育てます。

代表の言葉

山本五十六さんの言葉に「人はやってみせ、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば　人は動かじ。」があります。この言葉は、子供を育てる上で大切な視点を示しています。まずは、大人が手本を見せ、言葉で丁寧に伝え、そして、子供自身にやらせてみることうまくいったときには、結果だけでなく努力の家庭を認め、褒めることが子供の自信と成長につながります。学校と家庭が同じ方向を向いて子供を支えることが何よりの力になります。子供たちが自分から力強く駆け抜ける姿を学校と家庭で手を取り合って支えていきましょう。

３学期は次の学年の０学期とも言われます。寒い中ではありますが、活気あふれる３学期にしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（校長　袴田　洋史）